



創造する生徒 心豊かな生徒 鍛える生徒

藤花だより

令和5年度9月号
令和5年8月29日
さいたま市立大宮西中学校
TEL048(624)4339
<https://omiyanishi-j.saitama-city.ed.jp>

「自らに問いながら、自らを磨き続ける2学期に」

～カリキュラム・マネジメントの視点から～

校長 森角 由希子

今年の夏休みは、記録的な暑い日が続き、活動するには本当にたいへんな環境の中でした。生徒の皆さんは宿題も思うように進まず、ちょっと憂鬱な日もあったかもしれませんが。そのような中でも、部活動の練習や大会、コンクール・発表会、展示会、学習会、スピーチコンテスト、地域での行事やボランティアなど、いろいろな場面で意欲的に頑張っている姿が数多く見られました。ぜひ、夏休みの頑張りや成長できたことを2学期の学校生活の中で発揮していってくれることを願っています。

さて、7月の地域のラジオ体操では、本校の生徒が輪番で朝礼台に立ってラジオ体操をしたり、本校を会場として行われた自治会主催のサマーフェスタでは、演劇部がダンスチームとして参加したりするほか、地域のサークル活動の皆さんが、日頃の成果を発揮する場となっていました。体育館の外では、趣のある提灯の灯りのもと、地域の皆様が出店等で来場者をもてなしていらっしゃいました。日頃から地域の皆様には、学校の応援団として、生徒の見守りや活躍の場を提供していただいておりますが、地域と家庭と学校が一丸となって地域の子どもたちを見守り育てていこうとする、様々なお考えに触れることができたひと時でした。

一方で、令和5年度全国学習状況調査〈3年生対象〉の結果として、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか?」に対して、好意的な回答が約6割であったのに対し、「今住んでいる地域の行事に参加していますか?」の好意的回答は、約3割でした。コロナ禍でなかなか地域との活動が行われなかったこともありますが、本校の課題として、本校生徒の「地域への関心」はまだまだ伸びしろがあると考えます。

「カリキュラム・マネジメント」という言葉があります。「カリキュラム・マネジメント」とは、簡単に言うと、「学校でやっている色々なことを『つなげる』ということでしょうか。学校では、教科指導、生徒指導、教育相談、清掃指導、生徒会活動、安全指導、給食指導、保健指導、施設管理、会計業務等、それぞれを教職員の誰かが担当しています。これらは個々に独立して存在してるわけではなく、互いに大きく関連しています。学校では、色々なことがそれぞれに関連性をもっていることを経験的に教職員は知っていますが、自分の担当する仕事と他者が担当する仕事を積極的につなげて実行していくことにも力を入れていかなければならないと考えています。「カリキュラム・マネジメント」に参画するための第1歩は、自分の担当する仕事の窓口から、他者の担当する仕事を見ること、そして、自分の担当する仕事の質や効率等を高めるために、他者の担当する仕事にやってほしい事を考える。そして、そのことが、他者の担当する仕事にとっても有益であるかどうかを検討する。このようなことをそれぞれの立場で進め、情報交換するような場を設けていけば、だんだんとカリキュラム・マネジメントが動き始めていくと思います。

カリキュラム・マネジメントの重要性は、それぞれの狭い立場・範囲ではなく、広い視野に立ち、俯瞰的に学校教育の有効化を図ることにあります。そのためには、校内では教職員同士が気軽によく相談できる関係を築き、学校としては、校外（地域）との連携を模索し、教育目標の実現、教育課程の改善にとって可能なことを実践し、それを評価する共通理解と実行力が求められているのだと思います。

まだまだ残暑厳しい折ですが、2学期も大宮西中学校をどうぞよろしくお願いたします。

